

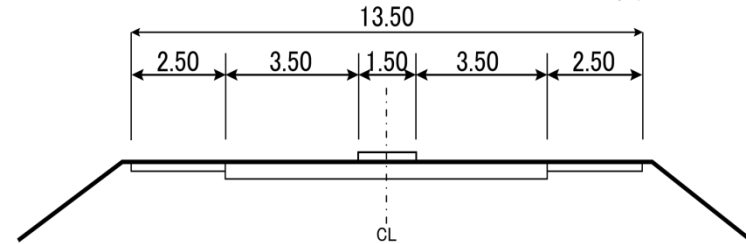
一般国道39号端野高野道路は、冬期災害に強い道路ネットワークを構築し、安全性や輸送効率の高い物流ネットワークを形成することによる地域産業の活性化、圏域中心都市北見市と女満別空港間のミッシングリンク解消による観光振興等を目的とした延長14.3kmの高規格道路です。

位置図



定規図

(単位:m)



計画の概要

- ①起点 ……北海道北見市端野町川向
終点 ……北海道網走郡美幌町字高野
- ②計画延長……14.3km
- ③構造規格……1種3級
- ④設計速度……80km/h
- ⑤車線 ……2車線
- ⑥事業主体……北海道開発局

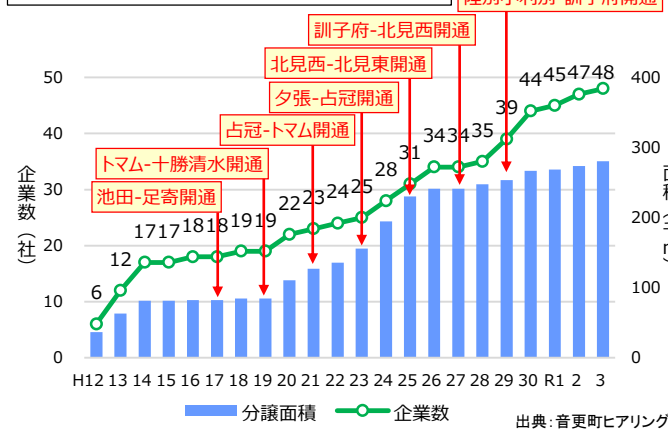
経緯

平成31年度 事業化

物流の輸送効率化

- 道央圏と十勝圏が平成23年10月に高速道路で繋がり、帯広都市圏は、苫小牧港を起点とした輸送4時間圏に含まれるなど、オホーツク圏や釧根圏との中継拠点として物流関連企業の立地が増加
- 安定性、速達性、安全性が高く、代替性や輸送効率の観点から北海道横断自動車道網走線の整備が期待

帯広都市圏産業集積拠点の企業立地状況



陸別小利別-訓子府開通

訓子府-北見西開通

北見西-北見東開通

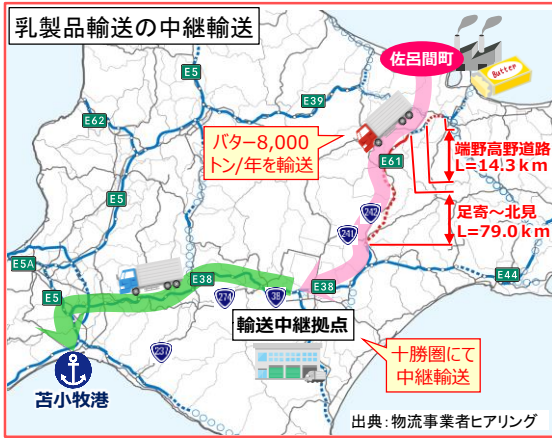
夕張-占冠開通

占冠-トムム開通

トムム-十勝清水開通

池田-足寄開通

出典:音更町ヒアリング



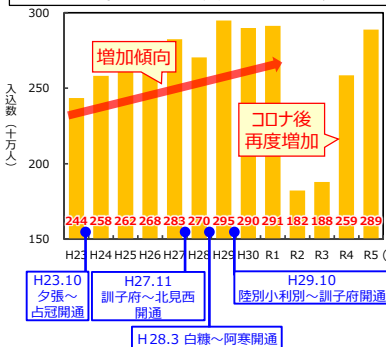
道東自動車道開通前後の苫小牧港からの4時間運行圏



周遊観光の活性化

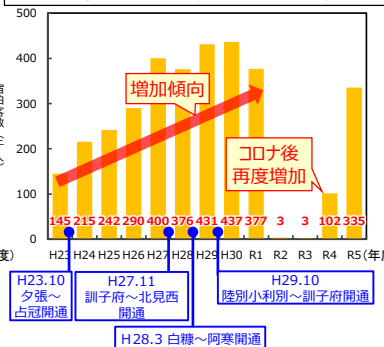
- 観光立国推進基本法に基づく観光施策推進、道央圏と十勝圏が平成23年10月に高速道路で繋がったことを契機に、道東地域の観光入込客数及び外国人宿泊客数は増加傾向で推移、新型コロナウイルス感染拡大後は大幅に落ち込んだものの、行動制限、水際対策が緩和されたことにより令和4年度は再度増加、令和5年度は例年並みに回復
- 道内7空港の民営化を始め広域周遊観光の活性化の観点から北海道横断自動車道網走線の整備が期待

道東地域の観光入込客数



出典:北海道観光入込客数調査報告書 ※道東地域:オホーツク圏、十勝圏、釧路・根室圏の合計

道東地域の外国人宿泊客数



出典:北海道観光入込客数調査報告書 ※道東地域:オホーツク圏、十勝圏、釧路・根室圏の合計

道東地域の主な観光ルート

ルート	夏期	冬期	短縮
①全線未整備	323分	356分	-
②現在	35分短縮	288分	41分短縮
③足寄～北見整備	47分短縮	315分	56分短縮
④端野高野道路整備	276分	300分	69分短縮
	58分短縮	265分	
	265分	287分	

出典:令和3年度道路・街路交通情勢調査 ※足寄～北見の旅行速度は70km/h(夏期)、端野高野道路の旅行速度は80km/h(夏期)、冬期低減率は高規格0.928、その他道路0.896とした

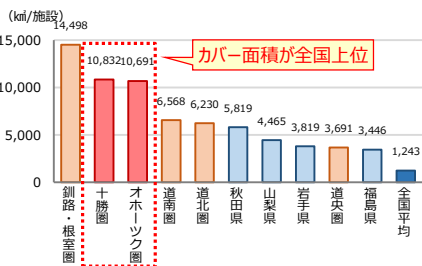
道東地域の主な観光ルート



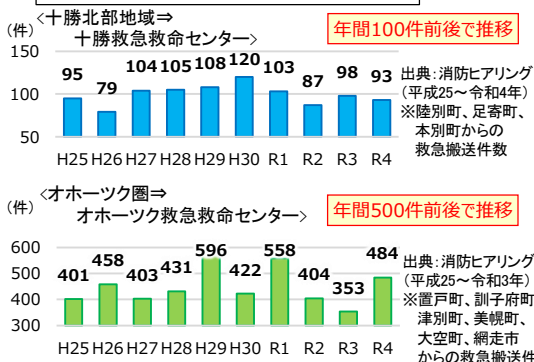
救急搬送の速達性・安定性向上

- ・十勝、オホーツクの救急救命センターは、帯広市、北見市の各1施設で医療圏を担っており、救急救命センター当たりの第三次医療圏カバー面積は、全国平均の約8倍と広域な医療圏
- ・十勝北部地域から帯広市への救急搬送は年間100件前後、北見周辺地域から北見市への救急搬送は年間400~600件で推移しているものの、現道の急カーブや急勾配による搬送患者への負荷が課題
- ・安定走行による患者負担軽減や救急搬送体制確保の観点から北海道横断自動車道網走線の整備が期待

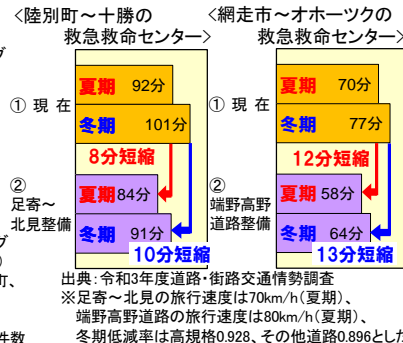
救急救命センター1施設あたりの第三次医療圏カバー面積(上位10位)



救急救命センターへの救急搬送件数



病院までの所要時間



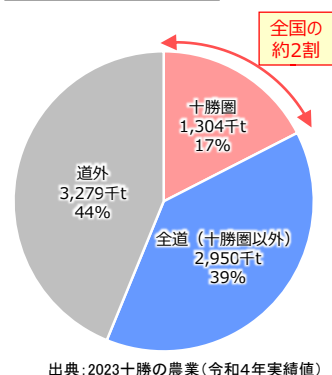
当該道路周辺地域の救急搬送状況



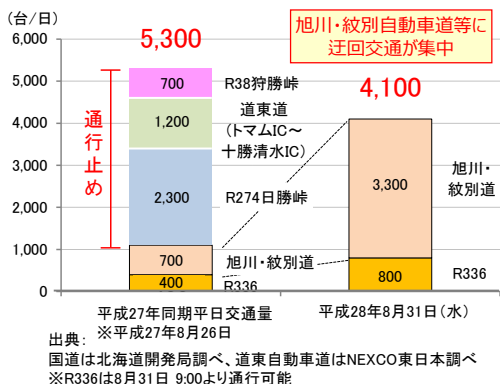
災害時のリダンダンシー確保

- ・平成28年8月豪雨災害により、道央圏と道東圏を結ぶ主要道路網が寸断
- ・国内生産量の約2割を占める十勝産の生乳は、旭川・紋別自動車道等を迂回して苫小牧港へ輸送
- ・災害リスクが高まる中、災害に強い道路ネットワークとして北海道横断自動車道網走線の整備が期待

生乳生産量のシェア



平成28年8月31日(豪雨災害時)に迂回した大型車交通量の交通状況



平成28年8月の豪雨災害発生時の広域迂回状況

